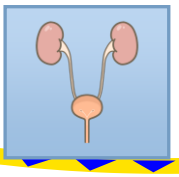
（一社）浦安市薬剤師会発行　　２０２５年８月発行

第217号 まちのくすりやさん

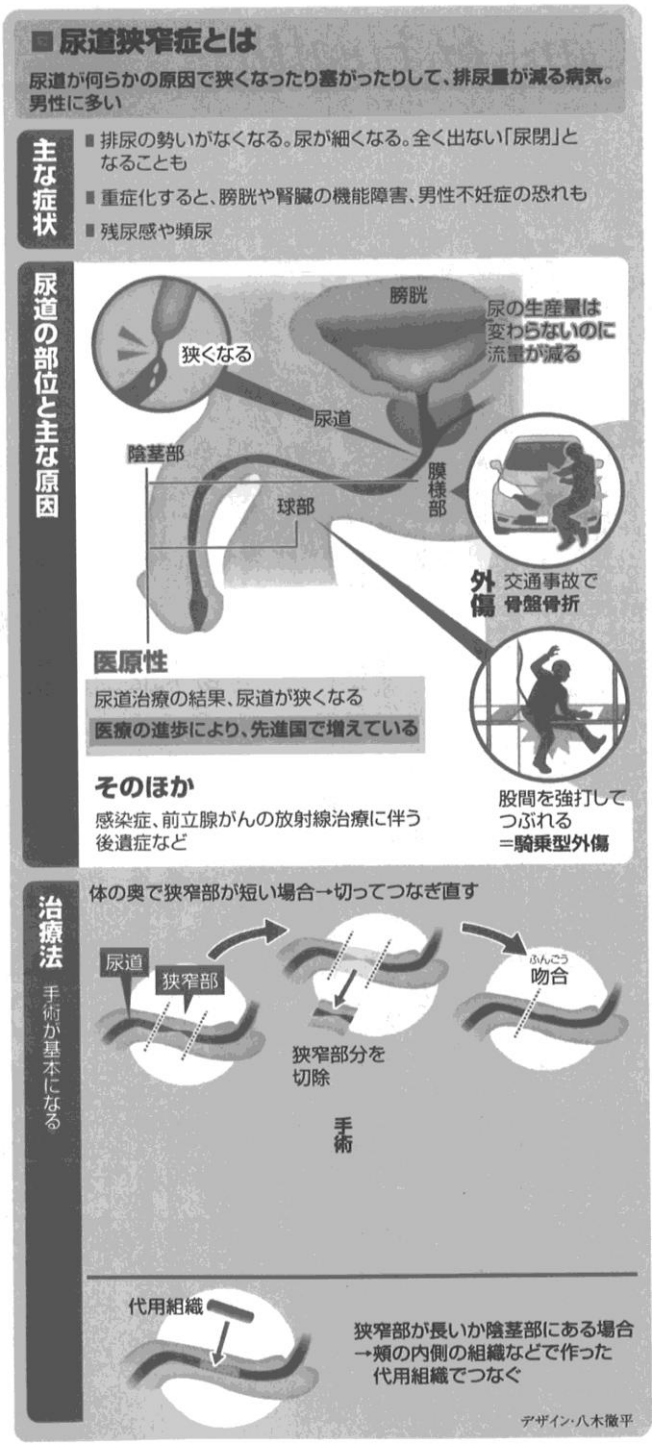
今回のおはなし

「尿道狭窄症」

「川遊びで感染症？」



膀胱・腎臓機能障害リスク



膀胱にたまった尿を外に出すための通り道・尿道が狭くなったり、ふさがったりする病気が**「尿道狭窄（きょうさく）症」**です。

重症化すると、膀胱や腎臓の機能に障害が起きる可能性があります。別の病気で尿道に内視鏡を入れて治療することが原因になることもあり、注意が必要です。

なぜ起こるかというと、外傷など後天的な理由が大半で、尿道が長い男性の方が女性よりも起こりやすいです。男性の尿道は、体の表面側から「陰茎部」「球部」「膜様部」の３つに分けられます。

代表的な外傷は、はしごや材木などの上に落下して股部を強打し、球部の尿道がつぶれる「騎乗型外傷」です。また、交通事故などで骨盤を骨折すると、体の奥の膜様部の尿道が断裂します。初期の段階では、尿が細く、勢いがなくなります。尿の生産量自体は変わらないまま流れが悪くなるので、残尿感を招きます。また無理な排尿を続けることで頻尿になることがあります。

重症化すると、腎臓や膀胱が機能障害を引き起こすリスクも高まります。自力で排尿できなくなれば、尿道や膀胱にカテーテルを入れた状態での生活を余儀なくされます。診断にはいくつかの検査をします。尿流測定は尿をためてから排尿してもらうことで、勢いや量、排尿時間を測定します。内視鏡で尿道内を観察する尿道鏡検査も一般的です。狭窄の位置や長さ、重症度を把握するため造影検査を行うこともあります。治療の基本は手術になります。長期的な成功率が高いのは、尿道を再建する尿道形成術です。通常は入院して全身麻酔で行います。

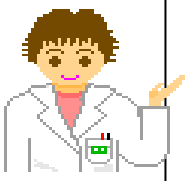
川遊びで感染症？潜む危険性

熊本県天草市にある滝の周辺で、昨年 8 月中旬、川遊び後に体調不良を訴える人が相次ぎました。県によると、下津深江川にある「轟（とどろき）の滝」周辺で、13 日に川遊びした高校生 7 人が、2 から 3 日後に下痢や嘔吐の症状を訴えました。同様の症状を訴える人が相次ぎ、医療機関の受診者は、23 日までに子どもを含む計 109 人になりました。重症者はいませんでした。また、症状は不明ですが、直接保健所に連絡を寄せた人が 41 人おり、うち 1 名は一時入院していました。県は感染症を疑い、患者の便や水質検査などを行いました。

川遊びで感染症になるケースは珍しくありません。症状が多いのは、レプトスピラ症です。福岡県では、2022 年、10 代後半から 20 代の 5 人に発熱や嘔吐、頭痛の症状が出て、3 人が診断されました。聞きなれない病名かもしれませんが、国内でも年間に数十人も感染します。菌をもっているネズミなど野生動物の尿などで汚染された川で泳いだり、水を飲んだりすると感染する可能性があります。

国立感染症研究所によると、天草市のケースは、レプトスピラ症は考えにくいそうで、5～14 日間の潜伏期間を経て、発熱や悪寒、頭痛など生じるのが主な症状で、川遊びの患者の症状とは一致しません。専門家の間では、寄生虫による「ジアルジア症」や細菌の「エルシニア感染症」の可能性を指摘する声もあるといいます。毒性のある藻なども考えられるといいます。

お知らせ



（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実１－２－５健康センター内
Tel　０４７－３５５－６８１２（月～金：10～15 時）
Fax　０４７－３５５－６８１０
メールアドレス　yaku_ura_t@urayaku.jp
ホームページ　https://www.urayaku.jp/